

特集 建設のフロンティア

- 1 巻頭言.....玉光 弘明
- 2 宇宙開発の現状と将来動向.....井口 雅一
- 6 大深度地下空間の有効利用に向けて.....吉川 和夫
- 13 大深度地下開発におけるシールドトンネル工事の現状と将来展望.....佐々木幸信

17 グラビヤ 建設のフロンティア

- 21 大規模土工の近未来風景—高度情報化施工への夢—.....岡本 直樹
- 27 空中に大地を築く挑戦.....宇治川正人
- 31 火山災害と無人化施工.....三村 洋一・間野 実・森 利夫
- 36 装着が簡単な緊急災害用建設機械の遠隔操縦装置.....荒川 輝昭・伊藤 喜一
- 39 超高地における建設機械.....玉根 敦司
- 43 21世紀初頭の海洋利用技術—持続可能な海洋利用を目指して—.....小林日出雄
- 50 危険作業従事者の安全管理の未来.....田中 藤尚
- 54 ずいそう 古戦場探訪記.....横山 茂
- 55 ずいそう ボーダーレスに思う.....田中 利典

- 56 新工法紹介 08-37無振動・低騒音の揺動式海上コンポーザー「SAVE-マリン工法」/09-08 油汚染土壌浄化工法：連続式気泡連行処理装置.....広報部会
- 58 新機種紹介.....広報部会

- 63 統計 建設業の受注動向について/建設関連統計.....広報部会
- 69 行事一覧
- 72 編集後記.....(久保・緒方・斉藤)

◇表紙写真説明◇

高速型ロータリ除雪車

220 kW 級、ツーステージ式、JR 220 (H) 型

TCM 株式会社

雪寒地域における高速道路での除雪作業車は、一般車両の通行に妨げにならないこと、回送時の高速化の要望が増えてきている。これに応えるため今回紹介する 220 kW 級ロータリ除雪車は、除雪幅が 2.2 m と狭く除雪作業時でも一般車両が容易に追い越しができ、片側一車線対面路線の路側帯での待機も可能である。

また、回送速度が 70 km/h と高速性を有し除雪ステーションまでの移動時間短縮を図っている。

かじ取り装置は高速走行時でも安定性・安全性が得られるよう 300 kW 級で実績のある作業時・回送時切換式を用いている。

車両設計は 180 kW 級・300 kW 級ロータリ除雪車と同時多元設計

を行い、部品の共通化によるサービス性の向上を図るとともに、幅広い除雪作業が行えるよう豊富なアタッチメントを用意している。

本機の主な仕様

最大除雪量	2,700 t/h
最大除雪幅	2,200 mm
除雪機横断面高さ	1,700 mm
投雪距離	13, 23, 45 m
走行速度 (前後進共)	作業時 40 km/h, 回送時 70 km/h
最小旋回半径 (除雪装置最外部)	車体屈折時 7.1 m, 前輪換向時 10.9 m
機関出力	235 kW/2,100 min ⁻¹
全 長 (走行姿勢)	8,450 mm
全 幅	2,200 mm
全 高	3,500 mm
除雪自動車総質量 (乗員定員 2 名含む)	15,300 kg